

既存意匠の継承に関する検討項目リスト1

現況材料の利用，保全を基本とする。材料の劣化，法規や性能への対応，材料再現製作の場合に関わる製作材料費・施工費及び現場工期を確認した上で，現実的な判断を行う。

各項目解説冒頭のグレー枠内は「平成16年度京都会館の改修計画に係る基本調査業務報告書」内の劣化診断から抜粋，要約。今回ピックアップした10項目のうち「A＝健全な状態」は1項目，「B＝軽微な劣化が見られ，計画的な更新が必要」と「C＝著しい劣化が見られ，緊急に対策が必要」の双方にまたがる判定は5項目，「C＝著しい劣化が見られ，緊急に対策が必要」が3項目。（「※」は機能的，法的な面を考慮し，劣化度の判定を引き下げた項目を示す）

「平成16年度京都会館の改修計画に係る基本調査業務報告書」から新たに現在の状況について下記内容に分類。

A：比較的健全な状態であり，下地等補修の必要がないもの

B：補修を要するもの

C：著しい劣化が見られ，交換が必要なもの。用途の変更，現行法規対応で更新の必要があるもの

大 庇

劣化度B（出，入隅部C）出隅部はプレキャストコンクリート（以下PC）と現場打コンクリート（以下RC）の収縮度の違いによって破損したため，1969年頃に仮設的な方法で補強されている（現在，躯体収縮は少なくなったと考えられる）。PC自体の劣化度は比較的良好。保護塗装を検討したほうがよい。防水層劣化による漏水により，ジョイント部にエフロが発生しているが，防水改修によって防止可能。



既存部(一般部)：B 補修

既存部(出隅部)：C 交換

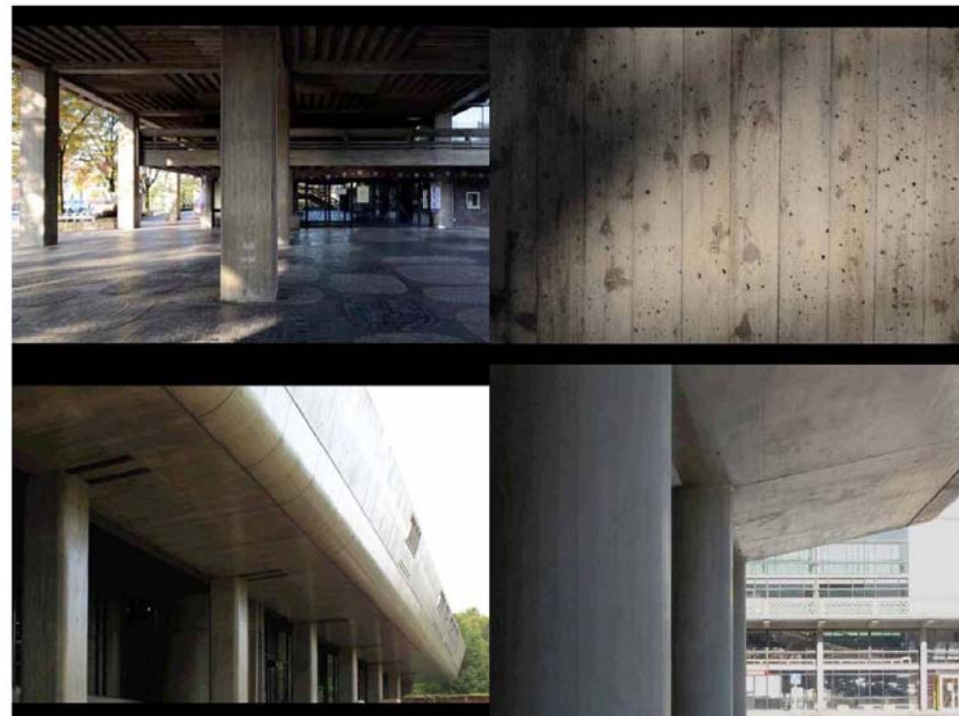
現況材料を保存，出隅部分は撤去しPCによる再製作を行い竣工時意匠を回復。全体に下地補修，塗装を実施する。

増築部：同形状，同素材にて再現

現況材料の保存利用も検討。現況躯体と大庇PC材とが一体に施工されているため，技術面・コスト面から実現性について検討中。不可能な場合は同じ形状のPCにて再現する。現況大庇は鉄筋かぶり厚が30mm未満のため，新規製作の場合は現行規格に則ったかぶり厚を確保し，周辺外部からの見えがかりを同様のものとする。JASS5での非構造部材の鉄筋かぶり厚規定は長期で30mm，超長期で40mm。

RC柱，梁

劣化度B（大屋根部C）柱梁に20力以上の錆鉄筋の露出が見られるが，構造体に致命的な影響を与える程ではない。H15の耐震診断では中性化進捗max5.6mmでかぶり厚内で良好な状態。



左下：東京文化会館 外壁改修事例

右下：神奈川県立青少年センター外壁改修事例

既存部：B 補修

中性化防止及び樹脂塗装による補修。劣化状況から改修分類を行い，状況に応じた措置を行う。表面の劣化からフッ素やアクリル等の樹脂塗装を行う。可能な限り木目造成を検討，風合いが大きく変化するため，確認作業が重要となる。現況耐震基準を満たしておらず，耐震壁の平面的配置も問題があり，第2ホールホワイエに耐震壁要素を設置する必要がある。既存意匠を保持しつつ耐震改修を行う。

増築部：既存柱梁の割を継承

既存柱梁のピッチを継承。RC面は現況同様の杉板化粧型枠を検討。



劣化状況の分類

A__雨による影響が僅かで，既存の打放し表情を活かせる部分。

B__雨ざらし部分で表面の劣化が進んでおり，多少の下地補修を必要とする部分。

C__雨垂れ等で表面が砂地・肌痩せが大きく，下地補修を必要とする部分。

既存意匠の継承に関する検討項目リスト 2

壁 ブリックタイル

劣化度A 経年劣化はほぼみられない。第2ホール上部の外壁に、塗装した跡がみられ、正常な部分との色違いを生じている。剥落等は見られない。赤い塗装跡は塗料であるため、剥離材などを使用した除去を検討する。



既存部：A 今後の劣化を防ぐため笠木補修、及び高圧洗浄工事を行う

現場打込みではなく中空部に鉄筋を挿入し、一段毎にモルタル充填しつつ馬目地にて積上げたもの。場所により精度のばらつきが激しい。現況サンプルを採取した劣化度調査を実施、図面通りの施工でモルタル充填具合、鉄筋・結束線も良好。今後の劣化を防ぐため天端笠木補修を検討する。クリーニング、モルタル白華垂れ付着除去のために、高圧洗浄工事（水にて洗浄）を行う。

増築部：色味風合いを合わせた煉瓦積みを検討

現況材料は歪みが大きく、かつ表面を手仕事にて製造しているため、再現は困難。工法性能共に現代における最良の方法ではなため、見付寸法を半分としたサイズ、色味・積み方を現況素材に合わせた煉瓦積みとする。

コンクリート ルーバー

劣化度調査なし



既存部：C 撤去 用途変更のため

会議棟1階部分の現況事務所スペースは、にぎわい施設への用途変更となる。二条通から中庭へ抜ける明るい表情の空間をつくり、人が往来し、視線も抜けるよう計画するため撤去する。一部端部に保存を検討する。

スチールサッシ, カーテンウォール

劣化度C 部分的に錆があり、開閉動作が重い。クレセントは殆どが機能不全。基準法により排煙窓が必要な可能性あり。耐震改修により建物の剛性が増し、ガラス割れ問題が拡大する可能性あり。



既存部：B 補修 地震時にガラスが割れ、落下する可能性があるため、

現況サッシを補修し、耐震性と断熱性を向上させる。

既存建具の劣化状況を調査し、クレセントの不具合が確認されるものの、サッシそのものの錆・歪みなどの進行は大きなものではなかった。そのため、現況サッシの枠部分を改修することで再利用検討を行う。ガラスを撤去、ガラス用補助枠(St同材)を取付け、ガラスの固定方法を、地震に耐えうる現代的なものに改修を検討する。排煙についてはサッシを使わない方法にて検討を行う。

増築部：新規サッシにて材料、割などを検討

PC手摺（欄干）

劣化度B～C 雨に打たれる部分の劣化が激しく、交換が必要。ヘアークラック、ゆがみ一部欠損も見られる。手摺の欠落箇所があり、通行人にとって危険。



既存部：B 補修 現況材を活用

現況材を利用可能と判断。背面に高さ1100mmのスチール手摺を設置する。劣化対策として雨水処理の検討も必要。

増築部：既存意匠を継承し、同材・同形状にて検討する
三日月型の部材については再利用も検討する

既存意匠の継承に関する検討項目リスト3

床 ブリックタイル

劣化度C※ 材の劣化や汚れは少ないが、凹凸が障害となっている。



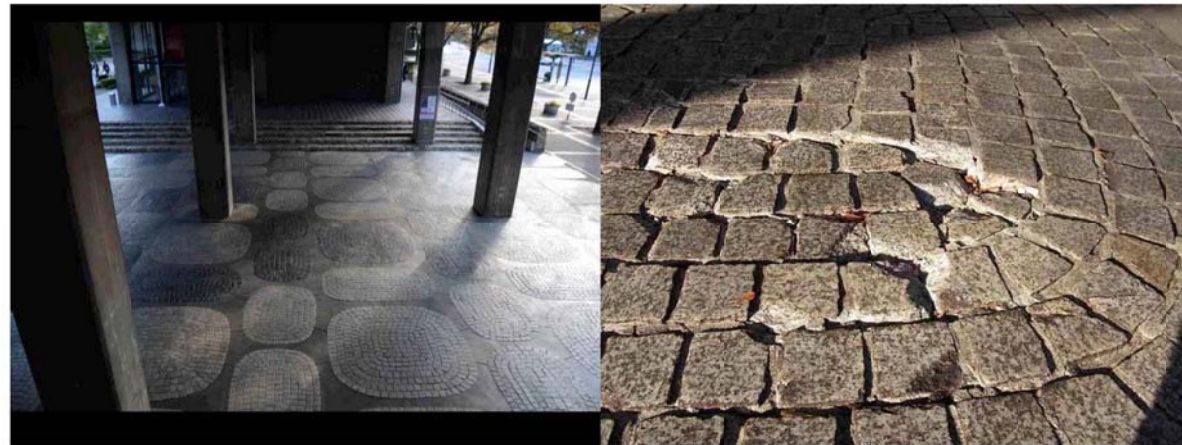
既存部：部分的な補修を行う

タイルそのものの歪み、部分的な陥没などが発生している状況。
落ち窪んでいる目地を中心に補修を行う。

新規施工箇所：寸法・色味をあわせた材料を使用する

小判型御影石ピンコロ床

劣化度C※ 材の劣化や汚れは少ないが、凹凸が障害となっている。



既存部：C 全面撤去後再施工 パターンを継承し平滑化して復元する

1/パターンの起伏が場所により3cm以上あり、「つまづき、転び易い」とのクレームが多く出ている。一度御影石を撤去し、表面を平滑にして再施工、バリアフリーデザインへ対応させる。

中庭：創建時意匠を平滑化して復元する

過去の中庭改修により異なる仕上げとなった中庭の「二条通から冷泉通への抜け」である床舗装部分は、竣工当初の意匠を回復させ、ピロティ床仕上げと連続させる。

PC階段

劣化度B～C コメント記載無し

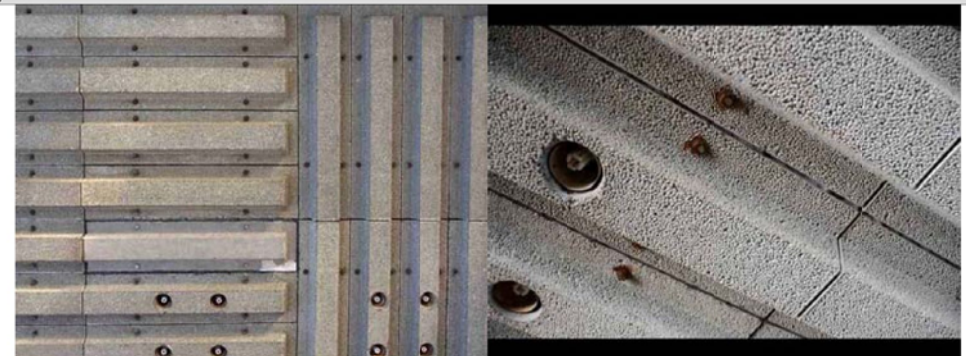


既存部：B 既存階段を残しつつ、現行法に適合させる

会議棟テラス階段、第1ホールテラス階段共に躯体劣化が最も進行している箇所。特に会議棟テラス階段は高さ3mを超えているため踊場の設置が必要。また階段基礎が陥没、クラック及びゆがみが発生している。既存階段の中央部分に新規階段を設置するなど、現況階段活かしつつ現行法規に適合させることを検討する。

パーライトコンクリートパネル

劣化度B（ボルト部分C）パネル自体の大きな劣化は少なく、下地材も安定（経年劣化は否めない）。固定ボルト錆汚れがパネルまで付着。

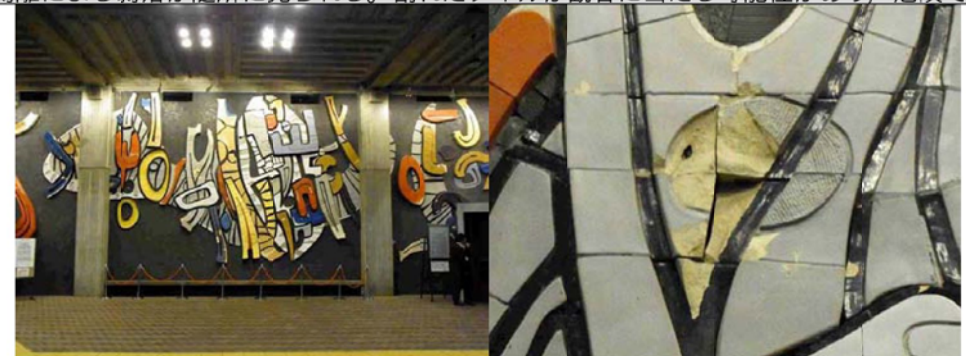


C 材質、形状、配置パターンなどを踏まえ異素材に交換

現況では一部材料の交換、シール打直しが確認される。固定ボルトの錆が進行、手の触れられる部分はパーライトが剥離している。スプリンクラー等天井設備を追加する必要がある。地震時の天井崩落を防ぐため、耐震性能を有した下地材へ全面交換が必要。現況材の再利用検討を行ったが、材厚35mmしかなく後施工での開口処理はクラックを発生させる可能性が高いため再利用が困難。現代ではパーライトによる製作よりも、品質の良い材料が多数あるため、材質、形状、配置パターンなどを踏まえた異材料へと交換する。

タイル壁画

劣化度C 表面剥離による剥落が随所に見られる。割れたタイルが観客に当たる可能性があり、危険である。



C 撤去

衝突のない部分でもタイルが剥落している状況、経年劣化からの自壊が確認され、今後加速度的に進行することが予想される。2層分の高さがあり、観客への事故を防ぐため撤去とする。